

カスタマイズページご利用の皆様へ

このページは①～⑱のパーツをご自身のお好みで一つお選びいただき『自分だけの一振』をオーダーメイド(金額見積り)・お申込みできるサイトです。下図<刀の部位・名称>をご参照いただき、必ず一項目一点のチェックをお願いいたします。

※チェックをつけていない項目があると、次の STEP の入力に進むことができませんのでご注意ください。

【選び方のポイント】

<刀の部位・名称>



〈入力手順〉

① 刀身^{とうしん}

まずは基本の刀を薄口^{うすくち}・厚口^{あつくち}からお選びください。

- ・薄口^{うすくち}刀身…重さは軽く、居合道初心者におすすめの標準刀身です。
- ・厚口^{あつくち}刀身…真剣に最も近い重量感があり、長尺まで対応する刀身です。

※「薄口/厚口刀身 黒」については、刀身を黒く仕上げております。

② 刃渡り^{はわた}

刃渡り(刃長)の選び方については、居合道場や流派によって異なるため明確な基準はありませんが、一般的な目安として身長が基準となります。下記の早見表のように5cm 高くなるごとに5分(1.5cm)ほど長くするのが、理想とされています。

身長	刃の長さ(男性)	刃の長さ(女性)
150cm~155cm	2尺2寸5分(68.2cm)	2尺2寸5分(68.2cm)
~160cm	2尺3寸(69.6cm)	
~165cm	2尺3寸5分(71.2cm)	2尺3寸(69.6cm)
~170cm	2尺4寸(72.7cm)	2尺3寸5分(71.2cm)
~175cm	2尺4寸5分(74.2cm)	2尺4寸(72.7cm)
~180cm	2尺5寸(75.8cm)	2尺4寸5分(74.2cm)

③ 樋彫り^{ひぼ}

刀身の強度を落とさずに刃を軽く、柔軟性を持たせるため、刀身表面に作った細長い溝を「樋^ひ」といいます。

刀の見栄えを整え、「ブン、ブン」と風切り音を出しやすくします。

真剣に近づけるため、真剣樋^{しんけんひ}を希望される方が多いです。

※刃渡りが2尺3寸以下の場合は必然と鉾^{はばき}の中まで若干樋が入ります。

・真剣樋^{しんけんひ}…真剣でも用いられ樋先が三角状に整えてある樋

・掻き流し^か…鉾の下まで通した樋

④ 刃文はもん

刀身に映る波模様で、一重と二重があります。

・一重刃文…直刃、湾れ、乱れ、互の目

・二重刃文…昔の刀工が残した、刃文を再現したものです。(村正、兼元等)

⑤ 鋺はばき

刀身が不意に鞘から離れるのを防ぐために、手元の部分にはめられた金具です。

江戸時代には様々な鋺が登場して諸藩固有(水戸鋺、加州鋺、庄内鋺)の模様が入ったものもあります。

⑥ 縁頭ふちがしら ⑦ 目貫めぬき

縁頭とは柄につけられた装飾金具です。柄の先端に装着したものを「頭」、柄の鰐側にある金具を「縁」と呼び、総称して「縁頭」と呼ばれています。またそれぞれの部位を補強する役割があります。

目貫は柄につける装飾金具です。

それぞれトンボ、桜、龍といった装飾があり、縁頭に揃えた柄にするのもおすすめです。

⑧ 鰐つば

柄を握る手を防護する部位で、刀身と柄の重量バランスを取る役割も担っています。こちらも縁頭や目貫の装飾と合わせて選択するのもおすすめです。

⑨ 鞘塗りさやぬ

木地の上に下塗りをして、薄い層を何度も塗り固めて、強度を上げます。

鞘塗りは時間を要するため、蝶貝などの特殊な塗りについては製作時間がややかかることもございます。

またお好みの鞘塗りの一部に藤もしくは鮫皮を巻くことができます。

藤、鮫皮をそれぞれ巻くことで美観を高め、鞘割れの防止をすることができます。

(何も巻かない場合は「なし」を選択してください。)

⑩ シトドメ

鞘についている下緒を通すくりかた栗方の紐通しの穴にはめこんである金具です。
金と銀の二種類あります。鍮と色を合わせるのも結構です。

⑪ 柄の長さ

柄は刀を握る部分です。居合刀の重心を決めるポイントとなり、刃渡りと同様に居合道場や流派によって異なるため明確な基準はありませんが、下記の早見表を目安としてご参照ください。

なお柄長は両端に当てはめた縁と頭も含めた長さとなります。

刃渡り	最適な柄の長さ
2尺2寸5分	7寸5分～8寸 (23cm～24.2cm)
2尺3寸～2尺3寸5分	8寸～8寸5分 (24.2cm～25.8cm)
2尺4寸～2尺4寸5分	8寸5分～9寸 (25.8cm～27.2cm)
2尺5寸～2尺5寸5分	9寸～9寸5分 (27.2cm～28.7cm)
2尺6寸～2尺7寸	9寸5分～1尺 (28.7cm～30.3cm)

⑫ 目貫位置

通常、中央目貫、逆目貫とお選びいただけます。

⑬ 柄糸

もめん木綿・・・滑りにくく、握りやすいため居合道で一般的に使用されている柄糸です。

しょうけん正絹・・・艶があり高級感に溢れ、肌触りが良く、観賞用にも適した柄糸です。

ぎゅうかわ牛革(表)・・・表面を平坦に加工されているため滑りやすいですが、使い込むほど握り手に馴染んでいきます。

牛革(ヌバック)・・・牛革を起毛加工したもので、なめらかな触り心地があります。

⑭ 下緒

鞘が容易に帯から抜け出せないように固定させるためのものです。こちらは木綿と正絹からお選びいただけます。柄糸の色合いと併せてお選びいただくことが多いです。

⑮ ^{さめがわ} 鮫皮

柄木に覆いかぶせてある表面に細かな凸凹のある皮を鮫皮といいます。柄木の補強と柄糸がズレないようにするため、実際は鮫皮ではなく「エイ皮」を使用してい

⑯ ^{せっぱ} 切羽

刀の鐔の表裏が、それぞれ柄と鞘に接する部分に添える薄い金具です。刀を鞘に納める時に固定する役割があります。

⑰ ^{めくぎ} 目釘

刀身が柄から抜けないように、柄と茎（刀身の根本の部分）^{なかご}にあけた穴に通す竹製の釘です。

通常は1本ですが、居合道などで使用される際は、安全性や耐久性を高める際は2本打つことをおすすめします。

【製作期間について】

- ・決済完了確認後から、おおよそ2週間～1か月ほど時間をいただいております。（期間は注文内容により異なります。）

【ご注文方法】

- ・ご注文に際して、e-メールアドレスが必要となります。
- ・お電話、FAX などでの受注は受け付けておりません。
- ・お申込み有効期限は1週間以内となっております、入金確認後の製作となるため1週間以内の入金がない場合はキャンセルとさせていただきます。
- ・ご注文のお手続き完了後、ご選択の方法にてお支払いいただきます。銀行振込もしくは Paypal
- ・ご不明な点がございましたら、STEP2のお問い合わせ欄からお願いします。
例 「刃渡りを2尺2寸にすることはできますか？」等

以上